

教 育 研 究 業 績

2021年5月1日

氏名 細田成子
学位 修士(家政学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
教育学 教育心理学	幼児教育・保育 保育・教育環境 指導性
主要担当授業科目	保育原理Ⅱ 比較保育演習 保育指導法演習「環境」 保育実習Ⅰ 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 教育実習指導 課題研究

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 ○ 指導計画記入や立案の指導	平成13年度～現在に至る	・東京工学院専門学校スポーツ健康学科の専任講師として担当の「教育実習」「保育実習」、東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科の非常勤講師として担当の「教育実習Ⅲ」の授業で、実習先指定により教育実習指導案の様式が特徴的な場合(マップ型等)や、異年齢保育における責任実習指導案考案等には個人対応で指導をしている。学生から実習がスムーズにいったという感想も聞かれ、効果が上がっている。
○ 双方向型学習・問題解決力育成の機会	平成13年度～現在に至る	・東京工学院専門学校スポーツ健康学科の専任講師及び鶴見大学短期大学部保育科非常勤講師として担当の「人間関係」、立教女学院短期大学幼児教育科の非常勤講師として担当の「保育方法論」、鎌倉女子大学児童学部児童学科の非常勤講師として担当の「幼児指導」、東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科の非常勤講師として担当の「保育指導法」の授業で、グループ討議や質疑応答を通して子どもへの指導・援助や対応を具体的に考える機会を設けている。対話の中からの新たな関心事を熟考したり、周囲の意見を参考にしたりしながら自分の保育観を育成できるように助言している。
○ 参加型学習の機会	平成17年度～現在に至る	・鶴見大学短期大学部保育科非常勤講師として担当の「人間関係」、立教女学院短期大学幼児教育科・聖心女子大学現代教養学部教育学科・東京家政学院大学現代生活学部児童学科の非常勤講師として担当の「保育方法論」、東京成徳大学子ども学部子ども学科の非常勤講師として担当の「保育指導法演習Ⅰ」の授業で、保育実践のシミュレーションとしてグループワークやロールプレイングを取り入れ、主体的参加を促している。また、白百合女子大学人間総合学部初等教育学科の非常勤講師として担当の「環境」では、課題発表の際にはOHC等を活用し、プレゼンテーション力をつけられるようにしている。
○ ワークシート形式の教材の作成	平成17年度～現在に至る	・鎌倉女子大学児童学部児童学科・東京成徳大学子ども学部子ども学科の非常勤講師として担当の領域「環境」及び、白百合女子大学人間総合学部初等教育学科の非常勤講師として担当の「環境」「保育内容総論」の授業では、実践的に取り組んだ内容と関連理論の理解のためにワークシート形式のプリント教材を作成し、有効活用している。
○ 指導技術に関する指導及び教材研究の機会／学生の実践を活かした教材資料(CD・冊子)作成	平成19年度～現在に至る	・立教女学院短期大学幼児教育科・聖心女子大学現代教養学部教育学科・東京家政学院大学現代生活学部児童学科の非常勤講師として担当の「保育方法論」、鶴見大学短期大学部専攻科保育専攻の非常勤講師として担当の「保育指導法研究」、東京成徳大学子ども学部子ども学科の非常勤講師として担当の「保育指導法演習Ⅰ」の授業で、実習や将来的な現場での実践を見据え、児童文化財の製作手順や効果的な使い方、遊びにおける素材の工夫などを紹介したり指導・助言したりしている。それらの製作や上演等を通して活動の資料を積み重ね、実習やボランティアで活用するなど、自主的な取り組みに繋がり、学生自身の工夫も促進されてい

<p>○ 指導案に関する課題</p> <p>体験型学習（アクティブラーニング）を活用した知識の構築</p> <p>① 自然環境に関連する事項</p> <p>② 幼稚園での実践授業</p>	<p>平成 22 年度～平成 26 年度</p> <p>平成 20 年度～現在に至る</p> <p>平成 20 年度～平成 24 年度</p> <p>平成 28 年度～平成 29 年度</p>	<p>る。また、手袋人形を用いた活動では、発表を CD と冊子を作成し、当該年度の学生の教材研究のみならず、次年度の学生への参考資料としても活用している。</p> <p>・鎌倉女子大学児童学部児童学科の非常勤講師として担当の「保育内容総論」、鶴見大学短期大学部保育科の非常勤講師として担当の「保育課程総論」、和泉短期大学児童福祉学科の「保育計画」、東京成徳大学子ども学部子ども学科の非常勤講師として担当の「保育指導法演習Ⅰ」の授業で、実習準備や実践の学びを深められるように指導案を複数回提出させ、その中から授業内容に即すものをピックアップし、ほぼ毎週教材として活用（プリント作成）をした。これにより、学生が抱える問題点が身近なものとして把握しやすくなり、理解度を図りながら授業を進められた。学生も指導案立案に意欲的になったり、問題解決力がついたりした。</p> <p>・鎌倉女子大学児童学部児童学科・同短期大学部初等教育学科・白百合女子大学人間総合学部初等教育学科・東京成徳大学子ども学部子ども学科・近畿大学豊岡短期大学通信教育部の非常勤講師として担当の領域「環境」の授業において「光る泥ダンゴ」を作ることを通して、自然環境についての理解や子どもが自然と関わること、体験活動を教科教育や保育内容にとり入れること、集中して物ごとへ取り組むことによる心的育ちの理解を促している。</p> <p>・鎌倉女子大学・同短期大学部の非常勤講師として担当の領域「環境」の授業を通じての、学校ビオトープやキャンパス内野外教育施設での活動を通して、自然環境と、幼児教育において自然体験をとりいれることの意味理解を促進することができた。</p> <p>・東京家政学院大学現代生活学部児童学科の非常勤講師として担当の「保育方法論」の授業で、学生が活動内容を考え、児童文化財を用いて幼稚園児の前で演じる機会を設けた。現場での実践を経験することで、教育（保育）方法や、計画から実践への流れや意義についての理解、及び実践を通しての反省的理解に繋がった。また、その学びを、実習に活かす姿がみられている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『保育・教育課程総論』（再掲） ・『幼稚園教育実習・保育所保育実習のマインド&スキル』 ・『保育原理 世界の保育者と共に』 ・『新版 保育・教育課程総論』 ・『幼稚園・小学校教育実習－学びの連続性を通して－』 ・『コンパス 保育内容環境』 ・『保育・教育カリキュラム論』 	<p>平成 26 年 3 月</p> <p>平成 29 年 4 月（再版）</p> <p>平成 29 年 4 月（再版）</p> <p>平成 30 年 3 月</p> <p>平成 30 年 4 月</p> <p>平成 30 年 4 月</p> <p>令和 2 年 4 月</p>	<p>再掲</p> <p>再掲</p> <p>再掲</p> <p>再掲</p> <p>再掲</p> <p>再掲</p> <p>再掲</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価 	<p>平成 17 年度～現在</p>	<p>・学生による授業評価において、いずれの教育機関における担当教科も毎年学科平均値より高い得点を得ている。</p>

<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における教育実習生指導 ・園内研修会講師 〔丸亀城南虎岳幼稚園〕 ・園内研修会講師 〔社会福祉法人虎岳会虎岳保育園〕 ・大学主催地域交流〔「第4回かまくらパパ&ママ'sカレッジ 親子で楽しむ遊びの大学」 神奈川県鎌倉市・鎌倉女子大学・かまくら子育て支援グループ主催〕 ・園内研修会講師 〔学校法人桐朋学園桐朋幼稚園〕 ・園内研修会講師 〔学校法人桐朋学園桐朋幼稚園〕 ・園内研修会講師 〔学校法人桐朋学園桐朋幼稚園〕 ・園内研修会講師 〔丸亀城南虎岳幼稚園〕 ・園内研修会講師 〔社会福祉法人虎岳会虎岳保育園〕 ・講演 〔帝京大学文学部教育学科初等教育専攻幼児教育コース〕 ・園内研修会講師 〔社会福祉法人虎岳会虎岳保育園〕 ・園内研修会講師 〔丸亀城南虎岳幼稚園〕 	<p>昭和 62 年 ～平成 3 年／平成 6 年～平 成 8 年</p> <p>平成 21 年 8 月</p> <p>平成 21 年 8 月</p> <p>平成 21 年 9 月</p> <p>平成 22 年 1 月</p> <p>平成 22 年 2 月</p> <p>平成 22 年 3 月</p> <p>平成 22 年 8 月</p> <p>平成 22 年 8 月</p> <p>平成 24 年 4 月</p> <p>平成 24 年 8 月</p> <p>平成 24 年 8 月</p>	<p>勤務園 2 園において、大学・短期大学等から受け入れた教育実習生を多数指導した。</p> <p>「指導計画に基づく保育実践（3・4・5 歳児）」</p> <p>「指導計画に基づく保育実践（0・1・2 歳児）」</p> <p>生物との触れ合いの場の設定を企画・実施。メダカの生態についての解説や大学内生息物・植物の紹介等。</p> <p>「保育レポートを元に子どもへのかかわりを考える①」</p> <p>「保育レポートを元に遊びの環境構成を考える①」</p> <p>「保育レポートを元に遊びの環境構成を考える②」</p> <p>「指導計画に基づく保育実践（3・4・5 歳児）」</p> <p>「指導計画に基づく保育実践（0・1・2 歳児）」</p> <p>「実習における指導計画立案の仕方と実習日誌の書き方について」</p> <p>「指導計画に基づく保育実践（0・1・2 歳児）」</p> <p>「『幼稚園教育要領』と指導計画の関連性ー子ども理解に基づくねらいと保育内容の選択ー 「指導計画に基づく保育実践 3・4・5 歳児」</p>
<p>5 その他</p>		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
<p>1 資格、免許</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭免許 ・保育士資格 	<p>昭和 62 年 3 月</p> <p>平成 29 年 6 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭一級普通免許状（東京都教育委員会） ・保育士（東京都-126345）

2 特許等 なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
・幼稚園教諭経験	昭和 62 年 ～平成 3 年／平成 6 年～平 成 8 年	幼稚園実務
・共同研究 鎌倉女子大学学術研究所助成研究	平成 20 年 度～平成 22 年度	「野外教育施設（東山ビオトープ）を活用した保育者養成に関する研究」
・共同研究 鶴見大学学長裁量費助成研究	平成 26 年 度～平成 27 年度	「就学前教育における子どもの文字環境について」
・日本保育者養成教育学会 『保育者養成研究』編集協力委員	平成 29 年 度	保育者養成研究第 2 号査読担当

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 保育原理 世界の保育者と共に	共著	平成 25 年 4 月	学芸図書株式会社	保育思想・歴史、保育内容の基本と、諸外国の保育等と現代の日本の保育事情との関連性などについて解説。全 185 ページ 第 4 章「保育の環境」担当 pp. 61～pp. 71 保育における環境の視点及び領域「環境」に基づく保育内容について。 共著者；小泉裕子 佐藤康富 平井悠介 細田成子 本山ひふみ 松川恵子 高橋功 Satomi-Izumi Taylor Sabrina Brinson 小川哲也 他 2 名
2 保育・教育課程総論	共著	平成 26 年 3 月	大学図書出版	保育・教育課程の基礎理論と、保育の質を高める保育計画の考え方について、理論・実践両側面から解説。全 164 ページ 第 2 章「保育課程・教育課程の意義」担当 pp. 18～pp. 26 保育所保育指針と保育課程/幼稚園教育要領と教育課程 関連法令や幼稚園教育・保育所保育の目的等の解説。 共著者；佐藤康富 細田成子 請川滋大 奥村典子 土橋久美子 結城孝治 石原栄子 柳晋金元あゆみ 河合光利 宮川萬寿美 村田晃
3 幼稚園教育実習・保育所実習のマインド&スキル	共著	平成 29 年 4 月	東洋館出版社 (再版)	前掲
4 保育原理 世界の保育者と共に	共著	平成 29 年 4 月	東洋館出版社 (再版)	前掲
5 幼稚園・小学校教育実習 一学びの連続性を通して一	共著	平成 30 年 3 月	大学図書出版	幼稚園・小学校の教育実習における基本的事項と実習の経験を学びとして活かす視点等について、実践的観点から解説。全 151 ページ

				<p>第5章「学びを深めるための観察・記録方法」担当 pp. 52～pp. 61 幼稚園教育実習における観察の視点と記録の取り方、それらの意義について。 共著者；斎藤義雄 和田美香 中内麻美 兼重祐子 須永真理 細田成子 中田範子 立川泰史他4名 教育・保育課程の意義・内容や保育の思想と歴史の変遷、保育計画・指導計画及び立案の仕方等について解説。全176ページ 第2章「『教育課程』・『全体的な計画』・『教育及び保育の内容並びに子育てに関する全体的な計画』の意義」担当 pp. 19～pp. 29</p>	
6	新版 保育・教育課程総論	共著	平成30年4月	大学図書出版	<p>幼稚園教育要領と教育課程、保育所保育指針と全体的な計画、幼保連携型認定こども園と教育及び保育の内容並びに子育てに関する全体的な計画を軸に、それぞれの関連法令や各保育機関の目的や役割等について。 共著者；佐藤康富 細田成子 請川滋大 奥村典子 土橋久美子 結城孝治 石原栄子 他5名 「環境を通して行う教育」と領域「環境」を融合的に捉え、広い視点で保育の理解を進めていくことを考えて、理論と事例で構成されたテキスト。全135ページ 第6章「文字・数・図形への興味関心と保育内容『環境』」担当 pp. 77～pp. 92</p>
7	コンパス 保育内容環境	共著	平成30年4月	建帛社	<p>幼児教育における文字・数・図形の取扱い、それぞれが生活をする上でどのような役割を果たしているのかに気づくことである。子どもの発達、認識体系に沿った教材や文字・数・図形との関わりと、学びの実際を解説。 高橋貴志 青木聡子 仙田考 中村陽一 百瀬ユカリ 伊藤能之 佐藤有香 細田成子 粕谷亘正 関川満美 目良秋子 松永愛子</p>
8	保育・教育カリキュラム論	共著	令和2年4月	大学図書出版	<p>改訂教育要領・保育指針・教育要領に沿った保育の内容や保育・指導の計画についての考え方や日本の保育の変遷等について解説。全190ページ 第2章「『教育課程』・『全体的な計画』・『教育及び保育の内容並びに子育てに関する全体的な計画』の意義」担当 pp. 19～pp. 33 共著者；佐藤康富 細田成子 請川滋大 奥村典子 土橋久美子 細野美幸 小屋美香 柳晋 金元あゆみ 河合光利 真宮美奈子</p>
(学術論文)					
1	野外教育施設(東山ビオトープ)を活用した保育者養成に関する研究(3)	共著	平成22年3月	鎌倉女子大学学術研究所『学術研究所報』第10号 【鎌倉女子大学学術研究所助成】	<p>鎌倉女子大学保有の里山環境東山ビオトープ(約5000㎡)及び野外教育施設を活用し、学校教育における自然環境有効活用についての研究。学生の自然に対する意識変化の追跡調査と併せた3年間の縦断研究。入学・卒業時のアンケートから、幼少期からの自然体験が、自然を活かした学習内容の検討能力となることを確認。授業プログラムについては、教科間連携とプロセス重視が有効的と検証できた。pp. 71～pp. 82 (共同執筆のため担当箇所抽出不可) 共同執筆者；山根一晃 田川悦子 西島大祐 細田成子</p>
2	保育における自発性と指導性の解釈について	単著	平成24年9月	『保育の実践と研究』vol. 17, No. 2 スペース新社保育研究室 相川書房 【寄稿】	<p>保育において「自発性」と「指導性」の兼ね合いがしばしば議論として挙がる。双方の機能について大場幸夫著『子どもの傍らにあることの意味』を引用しながら考察。保育者の意図をベースにして「自発性」を培うことから「保育文化的自発性」と位置づけて、不断に教育的環境を再構成して子どもを育むことの幼稚園教育の特質・意義</p>

				を関係の視点で捉えて論考。pp. 27～pp. 33	
3	就学前教育における子どもの文字環境について (1) -生活の中で文字の機能に気づき、使うこと-	単著	平成 26 年 6 月	『保育の実践と研究』 vol. 19, No. 1 スペース新社保育研究室 相川書房 【鶴見大学学長裁量費助成】	子どもが、生活の中で文字機能を捉えられる教育環境の在り方について、経験記憶や意味づけを軸に論を展開。文字機能理解には大人の関わりや意図的な教育が必要なことから、文字環境を「教材」（筆者定義）として、生活風景に埋め込むことが有効と結論。pp. 64～pp. 77 共同研究「就学前教育における子どもの文字環境について」の第 1 稿
4	就学前教育における子どもの文字環境について (2) -教材を動的概念と捉え、文字との関わりを体系的に考える-	共著	平成 26 年 9 月	『保育の実践と研究』 vol. 19, No. 2 スペース新社保育研究室 相川書房 【鶴見大学学長裁量費助成】	子どもの文字機能の体系的理解について実践的観点からアプローチ。「教材」を、保育者と子どもの関係性を含めた動的な概念とし、さらにパースの理論に基づいて独自に 3 分類した上で子どもの認識について事例考察。この分類が、文字環境の理解体系に有効な視点であると論証できた。 <u>目的・事例考察・分析（考察の一部は萩谷担当）・結果と全体考察の執筆を担当。</u> pp. 47～pp. 57 共同研究「就学前教育における子どもの文字環境について」の第 2 稿 萩谷みづき、 <u>細田成子</u>
5	教職課程における自然環境を活かした教育プログラムについて-生活環境から自然理解につなげる-	単著	平成 27 年 2 月	立教女学院短期大学紀要 第 46 号	ビオトープやその他の学校野外教育施設を活用した、自然環境に関する指導力をつけるための学生の取り組みと、その結果を活用した教職科目領域「環境」の授業での課題への取り組みについて。具体的な体験活動においてプロセスを重視することで、学習材料が学習者の視点から捉えられ、広義の環境理解につながると実証した。 pp. 115～pp. 131
6	就学前教育における子どもの文字環境について (3) -文字の機能を伝えるということを考える	共著	平成 27 年 3 月	保育の実践と研究』 vol. 19, No. 4 スペース新社保育研究室 相川書房 【鶴見大学学長裁量費助成】	学生作成の「なぞなぞカード」を用いて、保育活動場面から子どもの文字認識の様相を調査。「教材」（本研究定義）の 3 分類に基づき、カードの活用の仕方と保育者の関わりを照合しながら分析。現職教員と学生による実践の比較では、発問の仕方の違いによる子どもの理解度の差が明らかになった。保育者養成の立場としては、学生の語彙力を増やすことと、子どもに丁寧に言葉を伝える技術を教育する必要性を提言。 <u>はじめに・事例考察・全体考察・まとめの執筆を担当。</u> pp. 28～pp. 40 共同研究「就学前教育における子どもの文字環境について」の第 3 稿 松本和美、 <u>細田成子</u>
7	非対立概念としての自発性と指導性-「保育文化的自発性」と「実践的指導性」の提唱-	単著	平成 28 年 2 月	立教女学院短期大学紀要 第 47 号	保育において、子どもの自発性は保育者の指導性と切り離して考えることはできない。子どもの主導的行為と保育者の主導は関係的・相補的二重構造であることを自覚化し、両者を協働的機能関係として捉えることが、保育の場の文化の進展に寄与する創造的な営みにつながる。このことを「保育文化的自発性」と「実践的指導性」と定義づけて論考。pp. 67～pp. 79
8	活動の協同的展開を支える保育者の構想と子どもの活動理解との関連-4 歳児クラスの『3 びきのやぎのがらがらどん』を題材にした活動場面に着目して-【査読付】	単著	平成 29 年 3 月	『保育の実践と研究』 Vol. 21 No. 4 スペース新社保育研究室 相川書房	保育の場のいわゆる課題活動が保育者主導で展開されると、子どもの志向性は保障され難い。課題活動の展開様相に着目し、子どもの活動内容に対する理解度と保育者の指導や考えの協働的变化を分析。空間共有→協同的活動開始→協同的活動〔工夫・協力〕→協同的再構成〔連帯〕と、展開過程が序列化された。子ども自身が考えて関わられるように保育者が系統立てた援助をすることが、活動を自己目標化し、且つ全体のねらいが達成されると論証した。pp. 41～pp. 51

9 「見方・考え方」の理解につながる可能性としての光る泥だんご制作：教職課程における学生の取り組みから【査読付】	単著	令和元年3月	白百合女子大学 紀要 『保育・教育の実践と研究』第4号	幼児教育における「『見方・考え方』を生かす」という保育者の姿勢の理解について、光る泥だんごの制作が有用な課題となり得るかを、学生のレポートから考察。活動の一連を記録し、客観的にそれを捉えていく過程で、それぞれの興味に基づいた事がらについて学びが深まる様相が窺え、当該課題の有用性が示唆された。pp. 27～pp. 35
10 保育者養成課程における学修課題としての「光る泥だんご」製作	単著	令和3年3月	東京成徳大学 子ども学部紀要 11号	子どもの学びの柱となる対象と関わることの意味を光る泥だんご製作を通して理解しうのか、またそれはどのような筋道かを保育職志望の4名の学生レポートを分析、様々な保育理論を援用しながら考察。光る泥だんご製作は情報更新しながら目標達成が目指される思考活動でありそれを体感することが保育理解に繋がること明らかとなった。pp. 11～pp. 24
(その他)				
1 野外教育施設（東山ビオトープ）を活用した保育者養成に関する研究（1）	共著	平成20年3月	鎌倉女子大学 学術研究所『学術研究所報』第8号 【鎌倉女子大学学術研究所助成】	3年間継続研究の、1年目の成果報告。鎌倉女子大学が有する里山環境「東山ビオトープ」を活用した、自然体験に関わる指導力をつけるための授業プログラム開発についての実践的継続研究。予備プログラム構想のため、学生のアンケート結果を参考にしつつ、理科教育、保育、野外活動それぞれの分野において自然環境理解のために必要と思われる事項を抽出。その結果、五感に働きかけることが共通項として挙げられた。共同執筆のため担当箇所抽出不可。 山根一晃 田川悦子 西島大祐 細田成子 pp. 87～pp. 89
2 野外教育施設（東山ビオトープ）を活用した保育者養成に関する研究（2）	共著	平成21年3月	鎌倉女子大学 学術研究所『学術研究所報』第9号 【鎌倉女子大学学術研究所助成】	3年間継続研究の、2年目の成果報告。学生の、幼少期の自然環境の意識についてのアンケート調査では、自然環境に対する関心度は全体的に低く「自然環境を身近に感じる」レベルから授業内容を考案、実践を試みる必要性が顕現し、実践。実践活動の詳細と有効性について考察。共同執筆のため担当箇所抽出不可。 山根一晃 田川悦子 西島大祐 細田成子 pp. 71～pp. 76
3 新刊図書を紹介『遊び保育論』	単著	平成22年9月	日本保育学会 会報第148号 一般社団法人 日本保育学会	小川博久著『遊び保育論』について、保育内容としての遊びの捉えや保育者の立場に注目して紹介。p. 12
4 「聖心女子大学教育研究室だより」授業紹介	単著	平成30年4月	学校法人 聖心女子大学	担当授業「保育方法論2」についての概要と、学内オブジェ「黄金の林檎の木」のスペースでの児童文化財を用いた実践授業について紹介
5 図書館だより No. 39（東京成徳大学）「保育・幼児教育に関する図書館の定期購読雑誌」	単著	令和3年1月	学校法人 東京成徳大学	学会誌「保育学研究」保育雑誌「保育とカリキュラム」について紹介。
6 《黄金の林檎》の樹の下で アートが変えるこれからの教育	協力	令和3年3月	三元社	聖心女子大学オープンスペース「黄金の林檎の木」をモチーフにした芸術論・教育論。 授業取材・写真協力 田窪恭治 高階秀爾 聖心女子大学著 水島尚喜 永田佳之編著

〈学会発表〉（過去10年のみ）					
1	「生活科」と幼稚園教育の関連性—生活科の授業から考える—	単著	平成23年5月	日本保育学会 第64回大会 玉川大学	生活科の「知的な気づきを大切にする」を焦点化し、子どもの具体的な活動・体験の有用性について考察。子ども始発の動きや考え尊重する教師の態度により子どもの知的な好奇心が保持されると確認。それが社会生活につながる知識や力になると示唆。 発表要旨集 p.155
2	教養としての「環境教育」の実践指導について ～キャンプ実践を通して～	共著	平成23年10月	日本野外教育学会 第14回大会 筑波大学	キャンプ実践を通して学生に対する環境に対する意識変化を調査。自然物の活用や、自然に対する基礎知識を高め、広く環境について考えるようになった、という自然理解深化の有効性を再認。 研究発表抄録集 pp.58～pp.59 西島大祐 細田成子
3	教職における「環境」に関する基礎の指導について～保育内容「環境」の授業における光る泥ダンゴ制作から～	共著	平成23年10月	日本野外教育学会 第14回大会 筑波大学	領域「環境」の授業課題「光る泥ダンゴ」制作の取り組み過程の様子から、プロセス重視型の活動は学校教育における環境教育の理解に留まらず、広く環境を理解できる力になると考察。 研究発表抄録集 pp.60～pp.61 細田成子 西島大祐
4	子どもの学びにつながる文字環境について (1) —よみことば教材「なぞなぞカード」をとおして—	共著	平成26年9月	全国保育士養成協議会第53回大会 研究大会 ホテルニューオータニ 博多	幼児期の文字の認識過程は、記号理解から文脈理解へ向かう。「なぞなぞカード」は、その全過程の教材として有効であると、幼稚園での実践から検証した。 研究発表論文集 p.193 松本和美 細田成子
5	乳幼児期の文字環境について—園生活の中の文字環境を「教材」として捉える—	共著	平成26年11月	日本乳幼児教育学会第24回大会 広島大学	子どもが文字への意識を自然に身に付けるには、文字環境を、保育者と子どもの関係性を含めた動的な概念の「教材」（筆者定義）として、機能的側面、分類側面のマトリックスとして捉えることによって文字への意識が自然に育つと事例検証。 研究発表論文集 pp.154～pp.155 細田成子 松本和美
6	子どもの文字への気づきと学び—領域「環境」からのアプローチ—	共著	平成27年5月	日本保育学会 第68回大会 椋山女学園大学	領域「環境」の、「ある働きをしていることを実感」「人と人がつながり合うために文字が存在していることを自然に感じられる」に視点をあて、文字と言語活動の一致に焦点化して、教育環境における文字の取り扱いに言及。保育者と子ども、或いは子ども同士の協働的解釈が遂行される空間が大切と導いた。 発表 ID503 細田成子 萩谷みづき 松本和美
7	保育に活かす文字教材について—学生による「なぞなぞカード」を使った保育実践—	共著	平成27年5月	日本保育学会 第68回大会 椋山女学園大学	「なぞなぞカード」を使った保育実践から、保育職志望者が言語機能に関して身に付けておくべきこととして。言葉は社会的媒体であることへの理解と、子どもに丁寧に言葉を伝えるテクニックが必要と結論付けられた。 発表 ID17029 松本和美 細田成子 萩谷みづき
8	「保育文化的自発性」の視点から捉える子どもの遊び—4歳児クラスのごっこ遊びから—	単著	平成27年11月	日本乳幼児教育学会 第25回大会 昭和女子大学	保育者と子どもの協働による累進的変化がみられる創造的な場が「保育の場」であるという考えをもとに、遊びの中でのやりとりに着目。保育者の子どもの遊びの「テーマ」の見取りが協働的展開に繋がる。4歳児クラスの遊びの考察・論証に基づき、遊びの捉えの視点について提言した。 研究発表論文集 pp.176～pp.177
9	題材的な活動における協働性	共著	平成28年5月	日本保育学会 第69回大会 東京学芸大学	教育環境は、子どもの自発性と、推移する子どもの状況に応じる指導性の協働により創造される文化的空間である。その視点から、課題活動が子ども自身の目的活動になるための協働的機能について、実践事例から考察。教材レベルと認知レベル、さらに活動のプロセスが協応しながら教育目標が達成できることを『3びきのやぎのがら

<p>10 幼児の数量・図形の感覚を育てることについて</p>	<p>単著</p>	<p>令和元年5月</p>	<p>日本保育学会 第72回大会 大妻女子大学</p>	<p>がらどん』(ノルウェー民話)を題材にした表現的活動から検証。 細田成子 萩谷みづき 土橋久美子 発表 ID14012 発表要旨集 p. 773</p> <p>5歳児が具体物を数量や図形と関連付ける過程に着目。幼児自身が目を向けた対象から、法則性や概念が具体物の上で実用化され、対象間の関係性が幼児に認識されることを検証。日常の事象から数量や図形に関わる事がらを「抽象」できること、そして抽象、或いは抽出した事がらを活用・応用できること自体が数量や図形の感覚の育ちであると考察。発表論文集 pp. 865 (CD1667)</p>
---------------------------------	-----------	---------------	-------------------------------------	---

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。